

## 第16回 YOSAKOIソーラン祭り

### 勇壮な山田太鼓の響き 積丹町と香美市合同(特別招待)チーム

### 息のあった演舞

約350チームが参加した第16回「YOSAKOIソーラン祭り」。

昨年を最後にチームを解散した積丹町でしたが、特別招待チームとして参加

さらには姉妹都市である香美市からも「交流を続けたい」との想いから新たな合同チーム「ヤーレンソーラン積丹町&香美市」を結成。

6月9日、10日の2日間  
にわたり積丹町40人、香美

市6人の総勢46人の踊り子が、

山田太鼓伝承会の小気味よい太鼓の音色にのって息のあった演舞を披露し、沿道の観客からは大きな喝采を浴びていました。

また、祭り前日の8日に町総合文化センターで行われた山田太鼓伝承会による演奏会には町内外から約200人が訪れ、勇壮な太鼓の迫力あるステージの他、香美市特産品があたるお楽しみ抽選会も行われました。



### やっきたぞー!! 11人全員で勝ちとった全道大会への切符

### 積丹町野球少年団

### 学童軟式野球後志大会で準優勝

6月23日から25日の3日間、

倶知安町で行われた学童軟式野球後志大会で、積丹町野球少年団(河野靖監督)が準優勝に輝き、同位が出場するスタルヒン杯争奪全道スポーツ少年団軟式野球交流大会への出場権を手に入れました。

「野球で接戦を勝ち抜き決勝戦へ進出、西陵(共和町)と対戦した決勝戦では、1点を争う好試合が展開されましたが、惜しくも5対7で敗れました。」

後志大会には、管内から27チームが参加。同少年団は昨秋の新人戦大会で優勝し2回戦から登場しました。強豪が揃う厳しいブロックの中、初戦を4対0、準々決勝4対1、準決勝5対4と、チームワークの良さとな

同少年団の選手は11人しかおらず、うち6年生が4人、更に6年生が抜けると新チームの編成ができない、選手にとって大好きな野球ができなくなる不安を抱く中、小さな町の小さな少年団が全員野球で勝ちとった大きな価値ある準優勝となりました。

大保勇剛同少年団後援会長は、「選手一人ひとりがあきらめない粘り強さ、次につながるという気持ちの強さが十分に発揮された準優勝。これまでチームを育ててくれた監督、コーチに感謝したい。」と話していました。

全道大会は、7月27日から30日まで旭川市で開催されます。主将の大保優真くん(6年)は「後志大会では悔しい思いをしたので、この悔しさをバネにして全道大会では優勝を目指します!」と力強く宣言してくれました。



ガンバレ! 積丹町野球少年団。

## 町が好き♪人が好き♪ あったかネットワークに皆さんも参加してみませんか!!

あったかネットワークは、平成14年に「住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らせる町」を目指し、住民同士のネットワークや支え合いなど、自分自身ができることを考え、ボランティア活動を通して実践していこうという会です。

平成17年よりボランティア活動として、町内の「ごみ拾い」、「リングブルの回収」、「古切手の回収」などのほか、今年4月には、美しい積丹町を少しでもアピールできるようにと「花町づくり」の一環として「岬の湯しやこたん」の入口周辺に、ルピナス・スイセンの苗植えをしました。その際、町民のみなさんに、苗の寄付を呼びかけたところ、たくさんの方からスイセンの苗を寄付していただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。その後も、会員により、少しずつですが花の苗を植えてあります。来年には、もっとたくさんの方が咲くようにと願っているところです。

当会では、さまざまな活動を通して一人でも多くの方とのネットワークづくりを目指しております。町民のみなさん、わたしたちと一緒に活動してみませんか!

### 「岬の湯しやこたんまで花ロードを作りたい」 あったかネットワーク会員 三上英子さん(美国町)

あったかネットワークの年間行事の一つ、第1回目となった4月26日に雨降りの中、岬の湯しやこたん入口周辺にスコップで穴を掘り約20人の会員でスイセンを植えました。



牧草が茂り、根が張っている



路肩に果たして毎年きれいに咲いてくれるかどうか心配ですが、2、3年見守っていきたいと考えています。

夢は「岬の湯までスイセンで埋め尽くしたい!」のですが、毎年少しずつでも植えながら夢を実現したいと思っています。

それとスイセンを植えたところから岬の湯へ向かって登坂のカーブ左側斜面にルピナスの苗を少し植えました。今年はおくさんは咲かないと思いますが、ちよつとずつ種が落ちて毎年少しずつ増えていくのが今から楽しみです。

植栽活動は、今年から始めたばかりなので、1年ごとに植えた花が増えてきれいに咲いてくれることを祈っています。

## バランスの良い食事と味付けを知ろう! おいしいおかず作り教室

町食生活改善推進員会(越谷玲子会長)と町の共催による今年度第1回目のおいしいおかずづくり教室が入舸会館で行われました。

食事のバランスを考え、健康によい料理を作り学びあうことを目的に18人が参加。今回は地元でとれた旬のアスパラやエビ等を使ったミルクいためや「ホツケのすり身と豆腐の青しそ巻き」、「うどん」ぼろの沢煮椀」の3品を作りました。

また完成した料理を食べながら、北海道フードマイスターの佐藤多美子さん(美国町)による食材についての講話や参加者

が3グループに分かれて意見交換も行われました。

参加者からは、食材本来のうまみだけでも十分だしがでることや、うどんやアスパラの各家庭での料理方法や味付けなどについて意見交換が行われ、参加者は今後の料理の参考にしようとしてメモを取る人も多く、楽しみながら学ぶことのできた料理教室となりました。

北海道フードマイスター認定制度  
食材の特徴や栄養など道産食材に関する正しい知識を身につけ、その良さを広く伝えていく制度。地産地消の推進、観光客へのおもてなしの向上を図り、道産食材の価値向上を目指す。札幌商工会議所主催。



北海道フードマイスター  
佐藤多美子さん(美国町)

町食生活改善推進員として20年来、自分が作ること、食べることが大好きということで「食」に携わってきました。仲間と一緒に食材本来のおいしさをどんな料理にしたら引き出すことができるか研修しています。また町内にはこんなにおいしいものがあるということをお伝えすることができたらとの思いから、昨年北海道フードマイスターの資格を取りました。これからも地場産品の良さを伝え、また皆さんと対話する中でいろいろ教えていただきながら、活動をしていきたいと思っています。